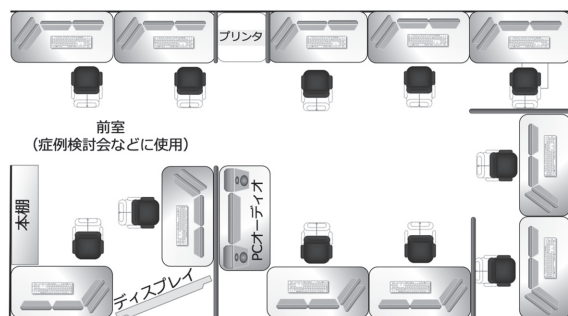


## [第13回] 大阪医科大学

松谷裕貴、大須賀慶悟 大阪医科大学 放射線診断学教室



図1 読影室の全体写真



配置図

### DATA

場所：大阪医科大学附属病院

読影端末：11台

電子カルテシステム：富士通社製 (HOPE/EGMAIN-GX)

読影モニタ：主に19インチワイド+3M2面カラー  
(EIZO：RadiorforceRX350)

レポート：F-RIS/F-Report (富士フィルム+インフォコム)

ビューア：SYNAPSE標準ビュー，SYNAPSE EX-V  
(富士フィルム)

音声認識ソフト：AmiVoice社製

スタッフ数：診断専門医11名と専攻医5名

### こだわりの配置

当院の読影室には11台の読影端末が設置されており、基本的に自由席である(図1)。高い間仕切りがない部屋は顔がよくみえて相談しやすく、専門医同士の会話を聞くだけで専攻医達にも勉強になる。読影室は検査業務が慌ただしいCT室に隣接しており、造影剤ルートのトラブルや副作用を起こした患者の対応など即座に駆けつけられる。また、向かいには秘書が常駐し、検査や読影に関する電話応対や事務作業を行う医局があり、ここにも読影端末が3台ある。そのほか、MRI室に3台、RI室に2台、血管造影室に1台読影端末が設置され、各検査業務と並行して読影が行われる。

読影室の前室には、日々の症例検討会や医学生の実習用スペースがあり、大型ディスプレイ、マイクや折り畳み椅子が置かれている。さらに、電動で高さ調節可能な立ったまま読影できる端末もあり、気分を変えたいときや居眠り防止に役立っている。最近は検査が増えて忙しいが、黙々と読影すると空気が重くなるので、部屋の真ん中のオーディオでいつも軽いBGMを流している。



図2 “case of the day”の風景

## 開放的な読影室

読影室は、外来棟・病棟・手術棟の中心にあり、各科のドクターの動線に位置する。読影室には扉がなくいつも開放されているので、各科のドクターにとっても移動中に気軽に立ち寄り、症例のコンサルトがしやすい場所になっている。

## ボーダーレスな読影

日常の読影では、専門グループ分けはしておらず、皆が全領域を経験するよう心がけている。読影に難渋する場合は、その領域が得意な先生に遠慮なく相談している。互いに専門領域の垣根を気にせずに、読影のトレーニングができる環境(空気)作りに努めている。

## 切磋琢磨

前室では、毎日盛んにカンファレンスを行っている。夕方の“case of the day”では、最近の読影で見つけた教育的・教訓的な症例、診断に難渋した症例など2～3例を皆で共有している(図2)。また、夕方だけでなくランチカンファ形式も取り入れて、週替わりで呼吸器・消化器・泌尿器・婦人科領域などの手術症例検討会で画像と病理の対比を行っている。関連病院の先生にも、月1回程度ミニレクチャーをお願いしている。専門医・専攻医・研修医の分け隔てなく、症例を持ち寄り、和気あいあいとした雰囲気の中で議論しながら日々読影力を鍛えている。

## 仕事の後は

当院は阪急高槻市駅の目の前で、西日本10位の乗降客数を誇るJR高槻駅から徒歩5分の非常に便利な場所にある。高槻は大阪市と京都市のちょうど中間にあるベッドタウンで、大阪梅田や京都の中心街まで電車で約15分の距離なので、色々な研究会へのアクセスも抜群である。病院の周りには、あらゆるジャンルの飲食店が立ち並び、グルメ好きの医局員達は盛んに食事会や勧誘会に繰り出している。



### あなたの読影室、紹介してみませんか？

各施設において、読影環境を整えるためにさまざまな工夫がなされていることと思います。「配置」「空間」「照明」など、皆さまのこだわりをぜひご紹介ください！ご応募については下記までお問い合わせください。

[clinimage@medicalview.co.jp](mailto:clinimage@medicalview.co.jp)

※掲載の可否につきましては、編集部にて判断させていただきます。あらかじめご了承ください。